

## 「国立台湾大学サマースクールプログラム参加報告書」

京都大学工学研究科1年 (井唯博吏)

まず、語学力の変化について述べると、出発前の中国語学習経験は、参考書を一度通読した程度だったので、クラス分けの口頭試験では自分の名前と出身を答えることしかできない程度であったが、1ヶ月間の中国語講座を経て、簡単な日常会話なら筆談を交えながら受け答えできるようになった。日常でよく使われる言葉は瞬時に口から発し、聞き取ることが格段に楽になった。また、中国語圏に様々な友人ができ、中国語学習に対するモチベーションが高まったため、帰国後もスカイプを利用して、中国語によるコミュニケーションを行う機会を絶やさないようにしている。プログラムには世界各国から参加者が来ていたため、中国語以外の言語に対する学習意欲も高まった。特に、英語の重要性を改めて実感したことは、今後の学習・研究において、有意義なものであった。日本では、外国語学習の際、読み書きを中心に学習を進めていくことが多いが、本プログラムの授業はスピーキングとリスニングに重点を置かれたものであった。その効果を実感することができたので、日本国内でスピーキングやリスニングの能力を鍛えるための様々な示唆を得た。また、本プログラムでは、様々な国籍の方々と、台湾の文化について、英語や中国語でグループディスカッションする機会が多くあったので、台湾の文化に対する理解だけでなく、外国語のスピーキングやリスニングの重要性や学習方法に関する様々な示唆を得ることができた。本プログラムは短期留学という形であったが、長期の留学にも興味が湧いた。来年度の就職活動をするつもりであったが、留学も視野にいれて、今後の進路を決めていきたいと思う。これまでに、独学で様々な言語を学習してきたので、本格的な外国語習得のために行動していきたいと思うようになった。英語能力の向上だけでなく、ロシア語や中国語など新興国の言語も並行して学習を進めていきたいと思う。短期留学は2回目であるが、前回の反省点として、積極的に話すことが挙げられた。本プログラムでは、中国語話者と接する機会が多くあり、前回の反省を活かすことができたように思う。本プログラムで知り合った友人たちとは、FacebookなどのSNSを通じて、今後もそれぞれの近況を確認しやすい状況にあるため、国際理解への意欲を持ち続ける良い機会を得ることができた。今後の課題としては、第一に英語能力の向上である。読み書きに問題はなかったが、聞くことと話すことが苦手なため、ディスカッションやコミュニケーションを行う上で、支障をきたす場面が多くあった。グループディスカッションでは、意見は思い浮かぶものの、英語でやり取りができなかったために、受け身がちであった。将来、卒業後の進路として、海外勤務を志望しているため、積極的に英語力を向上させていきたいと思う。